

残りの者
シャーアル

石巻祈りの家NEWS LETTER 「シャーアル」(113号)
986-0801 宮城県石巻市水明北3丁目13番28号
TEL /0225-96-1497 Email/ hjm-ja2@yg8.so-net.ne.jp
振替口座 02290-6-126186 口座名称 阿部 一
●代表/阿部 一 ●副代表/菊池せい子



信仰: 委託された管理の責任

- 7月に入った途端、北九州・秋田・新潟と連日の豪雨で多くの被害がまたもや発生し、多くの命が失われました。被害者の方々に哀悼と神の支えを心から祈ります。
- 地球規模から見て、台風や豪雨が避けられない地理的条件下に日本はありますが、最近はその規模がより大きくなり、被害規模も大きくなってきています。
- 専門家は、この局地的な気象変化は、「地球温暖化」が大きな要因だということで、世界的な問題として「温暖化ガス発生削減」への取り組みがなされています。
- しかし、この問題は気象条件だけでなく、私たちの生活に直結している治水にも問題があります。高度成長の中でより便利な生活環境を私たちは求めてきました。
- 適切に間引きされた森林は、樹木を成長させ、しっかりと根を張ると同時に降雨による保水力を高め、表土の流出や急激な流水による被害を食い止めていました。
- 長い経験から大雨の際に下流で洪水とならないために、昔の人達は平時は無駄と思われる広大な遊水池を造り、洪水の被害を押さえてきました。
- 一方、快適だという理由で、日本ではかなり山奥までも道路は舗装されています。そのために、地下に浸みこむ事のない雨水はコンクリートの側溝を急速に流れ、溢れて、今は大都市の地下街などの脅威となっています。
- 交通手段としての道路や鉄道は、工事のし易さのために河川に沿って、また山裾を削って建造されています。そして、耕作地や住宅地の確保という生活のために高い堤防で河川を縁取りしてきました。自然のバランスを崩して、限界のある人的計算による力学的な補強をもって開発してきたのです。「想定外」の自然現象で脆くもそれは破壊されています。
- 他方、世界の多くの地域で乾燥と砂漠化が進み、深刻な食糧と水不足が世界的な大問題になると予測されています。
- その意味では、この雨水は日本の農業や豊かな緑の大地を潤す大切な恵みとなっています。この恵みと私たちの求める便利さとのバランスをどう取るかが問われています。
- 聖書には天地創造が終わったとき、「神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。」(1/31)と記されています。神はその自然を「地を従えよ」(1/28)とその責任を人間に託されました。神に委託された自然の管理の責任を私たちは今問われています。
- 猛暑の季節、愛する皆さんの健康が守られますように。

先月の多くの恵みから

- ① 7/9の礼拝は、仙台バプテスト神学校長で私たちの群のメンターをお願いしている森谷正志師にメッセージと聖餐式のご奉仕をして頂きました。「証印としての内住の聖霊」という題での説教を通して私達の受けている恵みを再確認させて頂き感謝しました。
- ② 7/17に、いつも祈って頂いて共に励まし合っている牧羊教会気仙沼チャペルの阿部克衛ご家族が訪問下さいました。震災後初めてのお交わりとなり、様々な話題について一日話し合いと祈りの恵まれた時を過ごすことが出来ました。
- ③ 7/23に東松島・石巻・女川ミニストリーネットワーク & 東松島コミュニティーセンター主催、Gong Minさんの全面的な協力で行われた日本大震災復興支援コンサート「Gong Min:With(共に)コンサート」は、400人を越える多くの地域の方が来場され、素晴らしいコンサートを楽しまれました。何よりもGong Minさんたちの謙遜な言動が会衆に大きな感動を与えました。

- ④ 7/16の礼拝に、震災時ボランティア活動中に知り合った佐々木千秋さんが石島 顕さんと一緒に礼拝に参加されました。佐々木さんは聖書を読んでおられるとのこと。続けて礼拝に出席できるようにお祈り下さい。
- ⑤ 7/10に台湾の周 神助牧師が推し進められて台湾のリバイバルを生み出した「合一」の考えを学ぶために、石巻中央キリスト教会を訪ね、英語と中国語のDVDテキストを黄家琦師に通訳していただいて、その本質である「天の御国の文化」を一緒に学ぶことが出来ました。
- ⑥ 8/21-22に仙台バプテスト神学校で開催される第18回シンポジウム「地方伝道を考える」に信徒の立場から発題する事になりました。十分な準備が出来るようにお祈り下さい。
- ⑦ 佐々木百合子姉が、お母さんを天に送られて、新しい生活をするために今月仙台に転居されました。今までのご奉仕に感謝し、良き教会に導かれて、喜んで主に仕えられるように。
- ⑧ 8/26に、河北のビッグバンド教会も協力している三浦綾子原作「母」(小林多喜二の母物語)の映画上映会が持たれます。市民の多くの方が鑑賞できますように。
- ⑨ 8月は、「楽しい手芸の会」/「ほっと・Time」/「聖書を読む会」/「コーラス『花』」の活動がお休みです。9月から再開されます。

⑩ 7月も、献金・献品と共に手紙・メール等での励ましと祈りの支えによって群の活動が支えられたことを心から感謝します

■ 今月、次の課題を祈っていただければ幸いです。

- ① 自宅療養中の大平姉の戦いのために続けて祈り支えて下さい。
- ② 長野県佐久市で奉仕されている濱 道子師の回復のために。
- ③ 石巻にある諸教会の働きを通して、各教会に一人でも多くの求道者と決心者が起こされるようにお祈り下さい。

群の定期集会

・礼拝(毎週日曜日)	10:00-11:30
・祈り会(毎週水曜日)	10:00-11:30
・聖書を読む会(第1火曜日)	10:30-12:00
・ほっと・Time(第3火曜日)	10:30-12:00
・コーラス「花」(第2,4木曜日)	13:30-15:00
・楽しい手芸(第2,4月曜日)	10:00-12:00
・学習支援(地域の子どもの要望に応じて)	

信仰を詠う

8月 兄妹会

信仰の花言葉もつ睡蓮に
モナを秘そめつ鶴ヶ池に傍う
雷鳴を突き抜き眼前二重虹
喜寿に集ひし兄妹に降り注ぐ
「ヨイショ」から「どっこいしょ」へと何時の間に
掛け声つづく齡の可笑し



阿部 八重子

夫の兄妹の喜寿を祝う集いが、秋田を巡る一泊旅行となりました。夫の運転で、千秋公園、光悦堂美術館、秋田空港、増田蔵の街、角館と巡り乍ら、最後尾の私はお世話になりました。

6月末から7月末までに来訪された先生・兄弟および「祈りの家」の教会活動の様子



6/25 調整したICCCでの上原権治のコンサート

「楽しい手芸の会」で制作作品と作業後の交わりの前に菊池姉が聖書のお話し

6/28 廻持秀福兄来訪

7/10黄師と勉強会



7/4 婦人「聖書を読む会」

7/22 希望の家で Lauren & Asiah Concert

7/3 Dean師夫妻の招待:「はまぐり堂」でLindaさんの誕生日/私たちの金婚式/喜寿の祝



7/16 東松島CCでの Gong Minチームの東日本大震災復興支援コンサート「With」

7/9 メンター守谷正志師の礼拝奉仕

7/11 待ちに待った気仙沼の阿部家族の訪問

アドナイ・イルエ

「アドナイ・イルエ」＝主の山に備え在りの意

10年目の歩みの中で

「震災支援で一番心の痛かったこと」

キリスト教会「石巻祈りの家」代表 阿部 一

危機的な状況に遭うと、その人の人間性が現れるとはよく言われることである。今回の東日本大震災も想定外と言われる被災であり、多くの人にとっては人生で初めての大きな災害であったはずである。

その支援活動の中で、家族を失った方や家財一切を失った被災者の話を聞くことはとても辛いことで、ただ静かに耳を傾けるしかなかった。

物資支援を開始したころ、被災者の心にはまた地震が起こったという不安のために、出来るだけ多く物資を貰っておこうという傾向が見られた。そこで「必要な人に、必要なものを、必要なだけ」を目標に、被災者に、「住所・氏名・家族数・電話番号・必要物資と数」を記入して申請して貰うことにした。そして多く申請する人には無くなったらまた支援することを、遠慮する人には適正な数を支援した。ところが、ある晩、2家族が車でやってきて、申請書に記入をお願いしたところ、「何があるか見ないと分からない」と制止も聞かず、どどどと部屋に入り込み、持って来た袋に手当たり次第に物資を詰め込んだ。そして、何と「これで、お返しができる」と言い放って風の如く去って行ったのである。

また、ある被災者からは、津波に襲われた時、その津波にのみ込まれてしまった病床に伏していたご主人を必死に引き上げ、牧山の山麓の被害を受けなかった家をお願いして、玄関に避難させて貰った。その家族はガスで暖を取りながら夕食を食べていた。しかし、雪が降り寒くて身を震わせていたこの被災者になんの援助も示さず、翌朝には追い出されたというような悲しい事実も数多く聞いた。

そういういくつもの人間の醜さに出会う中でも、心が温まる経験も沢山させて頂いた。東京の教会から物資支援ができる広場を確保して欲しいという要請が入り、私の教え子の家が大きな貸し駐車場を持っていることを思い出し、お願いしたところ快く提供して頂いた。当日、沢山の支援物資が並ぶ前に被災者は長い列を作り、必要な物資を支援して頂いた。最後となる大き



なランタンが中年の男性に手渡され時、その後ろにいた老人が、「私のところは妻と二人でローソクで明かりをとっているから、是非欲しい」と独り言のように言った。すると、そのランタンを手にした男性が「私の所には懐中電灯があるから、じいさんこれ持って行け。」と手渡した。その場に暖かい空気が流れ、「人間はいいなあ」と感動した。

震災から余り日が経たない夕方に、一人の婦人が物資を分けて欲しいと訪ねてきた。最初声から判断して若い方かと思ったが、部屋に入り、必要な物資を聞き、被害の様子を聞いているうちに50代後半の方と分かった。婦人の被災の状況を聴いているうち、彼女自身の被災以上に大きな問題を語り始めた。津波の被害の受けなかった地に、新しい家を建てて住んでいる父親と妹から、「なんで、お前は津波で死ななかったんだ！ お前が死んでいれば、沢山お金が入って私たちは贅沢な生活が出来たのに。」と会う度に責められるというのである。聞けば、東京で長年働いていたが結婚のチャンスも恵まれず、石巻に帰ってきた。父親からは、「津波の被害を受けた家をお前が自分の金で修理して住め」と言われているということであった。「こんな私は生きる価値がない。家族もいないし、死んでしまいたい。」と言うのである。

「そんなことはない。あなたはこの地球上でただ一人の大切な人だから、与えられたいのちを大切にしよう。必要な物資は遠慮せずに申し出て下さい。」と話し始めたら、「そんなことを言われたことは、今まで一度も無い」と号泣し始めた。彼女の人生は小さいときから家族に疎まれ、社会で働き始めてもいつも軽蔑の対象にされてきた事が伺えた。詳しいことはそれ以上彼女は語ろうとしなかったから、もしも、私たちにできることがあればいつでも相談に来てくださいと伝えて、遠慮勝ちにわずかに申し出られた物資を手渡して別れた。その後、被害を受け壊れた出窓1つを修理しようとする業者が来た後「70万円だ」と言われたが「そんなにかかるものか」と相談があった。それはあなたを見てのふっかけ値段だから、ちゃんとしたお店に相談するよう話して、また必要と思われる物資を手渡した。

その後、私も物資支援やディーン宣教師との新館・浦屋敷地区のヘドロ上げや家屋清掃、畑の回復、仮設支援、ボランティアのコーディネートと本格的な支援活動に関ることになり、2回ほど訪問したが残念ながら連絡が取れずに来てしまった。

今も、ことある毎に思い出し、その後どうなったかが心が痛くなるのは、上記の親と妹から切り捨てられた婦人のことである。神が彼女を守り、支えてくれるように祈り続けている。